

日本のこころ、ここに在り。

数寄屋造り



吉本邸:すべて椋材を使い、瀟洒な佇まい。
(設計施工:大美建築)

数寄屋とは、本来、茶の湯のために建てた茶室のことで、一畳半から四畳半までの小室に用いる名称です。さらに、数寄とは、数奇(風流を好む意)に通じ、故意に奇をてらうのではなく、自然を尊ぶ心の現れとされています。大美建築は、この日本のこころを凝縮したような数寄屋造りからスタートしました。

数寄屋造りに用いられる部材は細いので繊細なデザインが求められ、その洗練されたスタイクな仕上がりには日本の原点が感じられます。

浮田邸和室・簡素化された数寄屋風和室。
(設計・森田建築設計事務所)

